

令和5年度  
新潟県農業再生協議会  
(令和5年11月29日開催)

議事録

## 令和5年度新潟県農業再生協議会通常総会 議事録

日時：令和5年11月29日

9時05分～10時20分

場所：新潟県自治会館201会議室

### 開会

- 令和5年度新潟県農業再生協議会を開会する。
- はじめに、本協議会の石山会長より、開会の御挨拶を申し上げる。

### 開会あいさつ（石山会長）

- 本日は御多用の中、専門委員の皆様、会員の皆様から御出席を賜り感謝申し上げます。
- 令和5年産の新潟米については、前年実績同等という生産目標に向けて、関係機関・団体で一体となり取組を進めてきた結果、主食用米の作付面積はほぼ前年並みとなり、生産数量については目標とした54.5万トン以内とすることができた。
- これは、多くの農業者の皆様から需要に応じた生産に取り組んでいただいた成果だと考えている。
- 一方で、今夏の高温・渇水の影響で、米の等級低下や収量が減少し、農業者の皆様の経営は圧迫されていると承知している。
- 本日は、6年産米の県生産目標等について御検討いただくが、このような状況の中でも、6年産米については、これまでの取組を継続することで、適正な在庫量を維持していくことが重要であると考えている。
- 本日御参集の皆様から忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げて、開会のあいさつとさせていただきます。

### 事務局

- 本協議会は原則公開としており、議事録についても、「新潟米」情報センターのホームページに公開することとなっているので、承知願う。
- 本日の出席状況を別紙の出席者名簿で確認する。  
～出席者名簿により確認～
- なお、専門委員の新潟県法人協会の丸山会長、えちご上越農協の羽深経営管理委員会会長は高速道路の事故の関係で遅れて出席となる。
- それでは、これからの進行について、石山会長にお願いしたいが、いかがか。

会員：異議なし

### 事務局

- それでは、石山会長にお願いする。

石山会長

- 次第に沿い、議事の進行を務めさせていただく。
- なお、本日の議事録については、事務局で作成することとし、議事録署名人の選任については、恒例により一任いただきたいが、いかがか。

会員：異議なし

石山会長

- それでは、議事録署名人を新潟県担い手育成総合支援協議会の山口事務局長、新潟県土地改良事業団体連合会の坪谷専務理事にお願いする。
- それでは、情勢報告として、『国の米政策の進捗状況について』、北陸農政局新潟県拠点の福井地方参事官からご説明いただく。

北陸農政局新潟県拠点 福井地方参事官

～令和6年産に向けた水田農業の取組方針（資料1）説明～

- 資料に加えて、産地交付金の減額調整の経緯について説明する。
- 令和5年度の産地交付金の追加配分において当初配分の減額調整をしている。配分については、各都道府県の前年度の当初配分額を基本としつつ、作付転換の実績、計画に応じて決定しており、5年度の新潟県への2月の内報は作付転換面積が減少する可能性があると考え、前年同額から1割減の幅を持たせて提示。その後、新潟県とやり取りを進め、4月の配分の際には、それまで県の方から重点市町村を決めて推進するという話も聞いて、前年度と同額の配分としたが、実際に作付転換が進まなかった場合には、追加配分時に調整することを伝えていた。
- 今回結果として、5年産の作付転換の面積が計画から減少したということを踏まえ、当初配分額を減額することとなった。
- 産地交付金は作付転換を行った作物への交付金であり、当初配分的前提として考えていた面積が減少したことからの減額となった。

石山会長

- ただいまの説明について、御質問を受け付けたいがいかがか。

新潟県 窪田農林水産部長

- 2点質問する。1点目は加工用米への支援について、新潟県内は米菓産業も多いが、原料の確保に苦勞していると聞いている。次年度の加工用米の支援についての国の考え方を教えて欲しい。
- 2点目は、産地交付金の減額について。参事官の説明では作付け転換が減少したという言葉を用いていたが、今まで主食用米の作付面積の目標との乖離を根拠とした減額とも聞いており、この解釈がずれているように思うので丁寧に説明願う。

北陸農政局新潟県拠点 福井地方参事官

- 加工用米について、米菓メーカー含め実需から調達に苦慮していると聞いている。今時点では加工用米の支援水準は前年に引き続きということで考えていると理解している。加工メーカーとの話し合いの中でしっかりと複数年契約を含め調達していただくことが基本と考えている。
- 産地交付金の減額について、丁寧に確認をしてきたところだが、作付転換と面積の計画に対しての乖離のパーセンテージというところから減額した。

新潟県 窪田農林水産部長

- もう一度確認だが、主食用米の県目標の増加に対してではなく、転換面積の実面積の減少に対して減額の額を計算されたということか。

北陸農政局新潟県拠点 福井地方参事官

- 当初配分時に最後の1割のところを配分した際に、作付転換の計画と実績の状況を見て判断したと聞いている。

石山会長

- 他にいかがか。
- 無いようなので、協議事項に移る。
- 令和6年産の生産目標等について、まずは、令和6年産の県生産目標及び市町村別生産目安について、県農産園芸課の渡部課長から説明願う。

新潟県農林水産部農産園芸課 渡部課長

～令和6年産の生産目標等について（資料2）のうち、令和6年産の県生産目標及び市町村別生産目安について説明～

石山会長

- ただ今の説明について、御質問、御意見を受け付けるが、いかがか。
- 特に無いようなので、事務局案とさせていただくが、いかがか。

会員：異議なし

石山会長

- それでは、事務局案とさせていただく。
- 続いて、令和6年度の産地交付金について説明願う。

新潟県農林水産部農産園芸課 渡部課長

～令和6年産の生産目標等について（資料2）のうち、令和6年産産地交付金について及び令和5年度産地交付金の減額について説明～

石山会長

- ただ今の説明について、御質問、御意見を受け付けるが、いかがか。

新潟県担い手育成支援協議会 山口事務局長

- 産地交付金の減額調整の話があったが、収量では生産目標を達成している。需給調整を何のためにやっているのかということを考えてもらえれば、転換面積が足りないという話もあったが、需給調整は米の生産数量を調整するものなので、作況もあるかもしれないが範囲内におさまっていることを考えれば、配慮があってもいいのではと思い発言した。

石山会長

- 意見として伺っておく。他に質問はないか。
- 無いようなので、この件についても事務局案のとおりとさせていただくが、国の運用が明らかになり次第詰めていくこととする。
- では、次の議題に進む。令和6年産米の需要に応じた生産の推進方針について、JA新潟中央会農業地域対策部の小見部長から説明願う。

JA新潟中央会農業地域対策部 小見部長

～令和6年産米の需要に応じた生産に係る推進方針について～

石山会長

- ただいまの説明について、御質問・御意見を受け付けるが、いかがか。

新潟県土地改良事業団体連合会 坪谷専務理事

- 基本的な考え方のところで、「異常高温が米の等級や収穫量に影響」とあるが、高温だけなのか。資料2で渡部課長から話があったが渇水という言葉があったが、私の感覚では雨が少なくて稲の生長段階では非常に難儀したと思う。水の管理について、暑いので本当はかけ流しにしたいけど、水がそんなにいっぱいあるわけではないので苦慮したということも聞いている。また、ため池なり、雨が降ったところは等級落ちた中でも、そこまで低下しなかったと思っている。
- 水の適切な管理が大切ということもあるし、品種選定にも関わるので、異常高温という言葉だけでなく、渇水対策についても、気象変動の言葉として、基本的な考え方を掲げられた方が良くはないか。

新潟県農林水産部 神部技監

- 御指摘のとおりなので修正する。

石山会長

- 他にはいかがか。

新潟県認定方針作成者連絡協議会 坪谷会長

- この資料だと県協議会から地域協議会、認定方針作成者に降りていくようなイメージだと思うが、そうではなくて方針作成者が作付けが終わった頃、来年はどのくらい主食用米を作るのかと、みんなが声をあげて、それを基にもう一度降ろしていく仕組みにできないか。簡単ではないと思うが、方針作成者が上からの動きを持っているようでは、前に進まないと思う。
- 責任をもって自分の傘下の農業者に対して、メッセージを出して、十分売れるから主食用米をいっぱい作ろうとか、それを集めた結果、県が考えている数量をかなり上回った場合は、みんなで減らそうとなるべきであって、県の想定と同じであれば、粛々と進める方向を目指してもらいたい。
- 次に、産地交付金について、日本農業法人協会でも話しているのだが、麦・大豆について水田で作ったものは水田活用の交付金が交付されるが、畑地で作った場合はそれが交付されない。でも市場では、どこで作った麦・大豆なのかは関係ない。水田活用の水張りの見直しのタイミングと併せて、国産の麦・大豆については地目関係なく支援できるよう提言を考えているので、県でも考えていただければいいと思う。
- それと、日曜日のNHKのスペシャルで農水省の総括審議官が輸出について話していたが、非主食用米について、県としても輸出を強力に進めていただきたい。また、全農さん、JAさんにも頑張ってもらって、商社を頼らず直接海外の実需者と輸出契約をする。そうすれば仕入れ消費税が免除されるので、生産者のメリットとなるので頑張ってほしい。

石山会長

- 坪谷委員から御意見と御要望を伺った。今後、検討すべきところは検討していく。
- 他にいかがか。

新潟県農業法人協会 丸山会長

- 私は十日町市に属しているが、十日町市では今月中に農家がどれくらい作付けし、それを集荷業者にどれくらい出荷するか品種別に調査している。調査結果について十日町市で調整して、来年の作付けについて決めていく。
- 来年の1月か2月くらいには、農家に目標とした生産量が多い場合は、総体の何%を下げてくださいと連絡している。このようにやっているのでも米が余ることはないが、他の市町村がどのようにやっているのか教えて欲しい。

新潟県農林水産部農産園芸課 渡部課長

- 十日町市の取組は私も担当していたこともありよく知っているが、地域で一丸となって作り上げた先進的な仕組みであり、異動する度に他の地域にも紹介してきたが、なかなか同じようには事務方の方で取組しきれないというところがある。
- 県協議会としても十日町市含めて、他にも様々な工夫している事例があるので、今年も新たに実務の担当者会議を開催し事例紹介もしたし、他にも個別の地域協議会との議論を進めていく。十日町市も引き続き先進事例として取組を進めていただきたい。

石山会長

- 他にいかがか。
- 無いようなので、基本的には推進方針について、皆様方から御承認いただいたが、文面について一部修正させていただく。修正については会長に一任いただければと思いがいかがか。

会員：異議なし

石山会長

- それでは、以上で今日の用意した内容は全て終了となる。

事務局

- 閉会にあたり、副会長の新潟県農業協同組合中央会の高橋専務理事から挨拶する。


閉会あいさつ（新潟県農業協同組合中央会 高橋専務理事）

- 本日はお忙しい中、また交通事情が悪い中、出席いただき熱心に御協議をいただき感謝申し上げます。
- 本日の協議会では、令和6年産の国の取組方針や新潟米の現下の状況について御説明いただき共通認識を持てたと思う。
- それを踏まえて令和6年産の県生産目標、市町村別生産目安の設定の考え方、さらには産地交付金、令和6年産の推進方針について御協議をいただき御決定いただいた。
- これらに基づき、令和6年産もオール新潟で推進をしていくことが大事であると考えているので、引き続き皆様から御協力をいただきたい。

事務局

- 以上をもって、本日の新潟県農業再生協議会を閉じさせていただく。

議事録署名人

山口和茂 

議事録署名人

坪谷満久 